

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
オリンピック・パラリンピック教育推進校

事業実施報告書

学校名【 横浜市立 能見台小学校 】

1 実践テーマ	【多様性を尊重する態度の育成 、スポーツを楽しむ心の育成】
2 実施対象者	① 4年2組 総合的な学習の時間 ① 5年2組 総合的な学習の時間 ① 6年1組 体育 ① 個別支援級 体育 ② 全校児童
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) 高田夫妻招聘 ② 教科名 (体育) 五種競技 ③ その他 (人権週間) 福祉の取組：全校児童に向けた講話
4 目 標 (ねらい)	○障害(得意や苦手)にかかわらず、誰とでもともに楽しめるスポーツについて考えることを通して、子どもたちが身の回りのことや社会に関心をもって生きることができる。 ア) 運動への意欲関心・体力向上の推進 イ) 人権教育の推進 ウ) トップアスリートとの連携・協働の推進
5 取組内容	ア) 運動への意欲関心・体力向上の推進 ○なわリンピックの実施 (全校集会において3分間の記録会を実施) ・各クラスで記録に挑戦した ・全校集会にて大会を実施 ・短縄の活動につなげた ○4年生、6年生、個別支援級における単元の工夫 ・陸上運動領域における五種競技の単元開発、実践を通して、子どもが自身の課題に気づき、解決型学習を進めることで意欲的に運動取り組めるようにした。 ・個別支援級で「ボール投げゲーム」において個々に合わせた学習課題の設定とそれを解決するための手立てを充実させ、楽しくボール運動に取り組めるようにした。 イ) 人権教育の推進 ・人権教育では、高田夫妻の講和、学校長の講和をもとに、全校で「誰もが安心して」とは何かについて学級会や道徳の時間、総合的な学習の時間で考え、人権に対する意識を高めていけるようにした。

	ウ) トップアスリートとの連携・協働の推進 ・デフリンピアンの高田夫妻の話を全校で聞く機会を設け、自分自身が今後どのように生活していくべきか考える機会を作った。
	 
6 主な成果	○子どもたちのスポーツに対する意識が向上した 陸上運動領域「五種競技」では、ポイント制やゲーム化を取り入れたことで、多種目に取り組むことで自己やチームの記録への挑戦を楽しみながら、技能を高めていくことができた。高田夫妻の話を聞いて、記録への挑戦の楽しさや新しい競技と出会う楽しさ、友達や先生との学び合いの有効性を実感することで、自分たちの活動にも生かしていくことができた。陸上運動が苦手と考えていた児童の割合も少なくなり、好き、得意と答える児童の割合が増えた。 ○オリンピック・パラリンピックに対する知識が深まった グループに分かれてオリンピック・パラリンピックそれぞれの歴史、選手、競技など様々なことを調べ、共有し合うことで、理解が深まった。また、調べる課程で高田夫妻から当事者としての競技への思いや取り組み方、生活の様子を聞いたことによって、よりいっそうパラスポーツへの理解が深まった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	○パラリンピックのメダリスト招聘したこと オリンピック・パラリンピックのことにに関して映像や資料で調べたり、考えたりすることはできる。しかし、実際に学校に来て話をしてもらうことやメダルを触らせてもらうことを通して、より学習内容が深まり、子どもたちの意識も高まった。
8 主な課題等	○学校全体で盛り上がるような工夫が必要であった。 学校としての取組は運営委員会主催のマスコット投票と高田さんのお話を聞くという2点であった。学級によって活動がその場限りのものにならないような工夫はしていたが、学校全体としての取組や持続的な活動につながらなかったため、あらかじめ設定するようにしたい。
9 来年度以降の実施予定	○委員会や学級などの単位で、オリンピック・パラリンピックについての情報を発信したり全校に呼び掛けたりする組織を作り、校内でオリンピック・パラリンピック情報がいつでも見られる掲示板を作ったり全校放送や全校集会の中に位置づけたりするようにする。 ○スポーツを楽しむ心を育成するために、普段の学習の単元を見直したり工夫したりする。 ・多種競技の実践、開発 ・運動会やなわリンピックとの関連づけ